

科目名	英会話Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	上江洲 公志	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を表現することが出来るようになることが目的。			
≪講義概要≫ 積極的に辞書を使用しましょう。			
≪レポート作成≫ 長文は日本語訳もしましょう。その際、調べた単語やイディオムも書き入れておきます。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	挨拶、自己紹介	16	
2	園内の案内。戸外での道案内。	17	
3	登園時の会話。手遊び歌。	18	
4	工作時間の会話。	19	
5	教室内のものの場所を示す。	20	
6	英語で桃太郎を読む。	21	
7	保護者からの相談。	22	
8	お昼寝時間の会話。	23	
9	1日の活動と様子を伝える表現。	24	
10	園行事予定についての会話。	25	
11	時刻を表す英語。	26	
12	体調不良の園児との会話。	27	
13	英語で浦島太郎を読む。	28	
14	動きの表現	29	
15	乳幼児の保育に関する英語	30	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・レポート・出席率			
≪テキスト≫ 「保育のための基礎英語」 金星堂			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	英会話Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	上江洲 公志	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 日常生活において使用される単語や表現を理解する。			
≪講義概要≫ 身のまわりの出来事を題材にした英語表現を学び、それを基にインフォメーションギャップやグループワークで実際に話したり書いたりする練習を行っていく。			
≪事前事後学習≫ 授業の始めに、簡単な口頭での自己紹介をしてもらいます。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	自己紹介	16	
2	コミュニケーション	17	
3	〃	18	
4	英会話で表現する	19	
5	〃	20	
6	保育園でのあいさつ	21	
7	〃	22	
8	園行事での会話	23	
9	〃	24	
10	保育に関する英会話	25	
11	グループワーク	26	
12	〃	27	
13	グループ発表	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	健康科学	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	平良 章次	単位数	1
		時間数	15
<<到達の目標>> 健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することが出来る。			
<<講義概要>> 新聞・インターネット等における健康・体力・スポーツに関する情報に日常的に関心を向けておくこと。			
<<レポート作成>> スポーツの意義と商業主義、勝利至上主義などの問題点と課題を指摘できるような「スポーツ」「からだ」「健康」「保健」などの語句をキーワードにした新聞・雑誌記事を収集する。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	スポーツの概念	16	
2	余暇社会とスポーツ	17	
3	地域社会とスポーツ	18	
4	国民レジャー活動とスポーツ	19	
5	国民スポーツの諸相	20	
6	国民スポーツ発展のために	21	
7	健康という言葉	22	
8	健康観の変遷	23	
9	WHOの健康定義	24	
10	現代社会の健康阻害要因	25	
11	運動不足の実態	26	
12	身体運動と健康	27	
13	体力の概念	28	
14	生活におけるトレーニング	29	
15	まとめ	30	
<<成績評価方法>> 筆記試験・レポート・出席率			
<<テキスト>> 「生涯スポーツ・健康科学」 近畿大学九州短期大学			
<<実務経験 (有) ・ 無 >>			

科目名	生涯スポーツ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	平良 章次	単位数	1
		時間数	24
≪到達の目標≫ 幼児期および青年期における・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することが出来る。			
≪講義概要≫ 「できる」ことにくわえ「わかる」ことや「みんながうまくなること」を共通目標に設定し、グループ学習における集団的・組織的活動を重視しながら「計画の立案－実践－総括－再計画」			
≪事前事後学習≫ 授業で体験した運動あそび、レクリエーションゲームを自分内に工夫して、発展させること。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	オリエンテーション、アイスブレイキングゲーム	16	運動あそび、スポーツの指導案作成（幼児期）
2	コミュニケーションゲーム	17	〃
3	子どもを対象とした運動あそび①	18	運動あそび、スポーツの指導案作成（青年期）
4	子どもを対象とした運動あそび①	19	〃
5	子どもを対象とした運動あそび②	20	運動あそび、スポーツの実践
6	子どもを対象とした運動あそび②	21	〃
7	高齢者や障がい者を対象とした運動	22	〃
8	バレーボール	23	〃
9	〃	24	まとめ
10	卓球	25	
11	〃	26	
12	バドミントン	27	
13	〃	28	
14	幼児期および青年期以降における運動あそび	29	
15	スポーツの意義と課題	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・実技試験			
≪テキスト≫			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	情報処理入門Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	城間 要	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて概観します。

《講義概要》

インターネットや雑誌などを併用し、最新技術や動向を調べましょう。大切なのは、内容を自身の言葉で説明できる程度にまで理解し検討や考察を加えることです。

《レポート作成》

引用は最小限に抑え、書籍名だけでなくウェブページについてもURLなどを示すこと。又、必ず私見を示すように努めてください。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	情報とは	16	
2	データの表現方法	17	
3	コンピューターシステム	18	
4	入力・出力装置	19	
5	記憶装置	20	
6	中央処理装置	21	
7	基本ソフトウェア	22	
8	応用ソフトウェア	23	
9	ネットワークとは	24	
10	アプリケーション	25	
11	インターネットのしくみ	26	
12	ネットワークの脅威	27	
13	除法セキュリティ	28	
14	オフィススイートの導入と利用	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「情報処理入門Ⅰ」 近畿大学九州短期大学

《実務経験》 (有) ・ 無 »

科目名	情報処理入門Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	城間 要	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。

《講義概要》

代表的なオフィススイートである、Word・Excel・PowerPointの3つのソフトウェアの概念や活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。

《事前事後学習》

受講前に、Windowsの基本操作を一通り習得していることが望ましい。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	Wordの基本操作	16	
2	文字の入力・フォント設定	17	
3	段落の設定・ページレイアウトの設定	18	
4	画像の取り組みと編集	19	
5	図形描画機能の利用	20	
6	Word総合演習	21	
7	Excelの基本操作	22	
8	文字・セル・罫線の設定	23	
9	計算式の入力	24	
10	基礎的な関数	25	
11	Excelの総合演習	26	
12	PowerPointの基本操作	27	
13	アニメーションの作成	28	
14	PowerPointの総合演習	29	
15	筆記・実技試験	30	

《成績評価方法》

授業参加態度・筆記試験・実技試験

《テキスト》

「情報処理入門Ⅰ」 近畿大学九州短期大学 ・ 講師作成資料

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無 《

科目名	日本国憲法	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	城間 要	単位数	2
		時間数	30

≪到達の目標≫
 国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものですから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そして、その原理・原則を実現するための政治の仕組みはどうなっているかを体系的に学習していく。

≪講義概要≫
 つねに問題意識をもって自らの認識と考えをもつ学習でなければならない。その為には、まずは関係する憲法条項を必ず参照しつつ、その意味内容を理解し、そこでの問題としてどのような問題点があるかを認識すること。

≪レポート作成≫
 最初はテキストを通読し、2回目からはポイントとなる部分にアンダーやマークを付けながら精読し、3回目は、重要な部分や関係する部分を書き抜きながら、作成する。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	憲法とは何か	16	勤労の権利
2	憲法の特質・分類	17	労働基本権
3	明治憲法の制定と特色	18	人身の自由と刑事手続きの保障
4	日本国憲法の制定	19	刑事被告人の権利
5	国民主権	20	国務請求権
6	象徴天皇	21	参政権
7	平和主義の現実	22	国民の義務
8	平和主義と国際貢献	23	統治機構の原理
9	憲法9条と集団的自衛官	24	国会
10	基本的人権	25	内閣
11	包括的基本権	26	裁判所
12	精神的自由権	27	地方自治
13	経済的自由権	28	憲法の保障
14	生存権	29	憲法改正
15	教育を受ける権利	30	まとめ

≪成績評価方法≫
 筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫
 「日本国憲法」 近畿大学九州短期大学

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	幼児と音楽表現	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	當眞 夏子	単位数	1
		時間数	15
≪ 到達の目標 ≫ 教育現場での必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やし、打歌い示すことが出来る。			
≪ 講義概要 ≫ 楽典を解説し読譜練習や作品解釈を行う。			
≪ 事前事後学習 ≫ 歌唱、ピアノともに練習あるのみです。特にピアノで初見状態でのレッスンは成立しないので、課題への取り組み、授業後の練習は最低でも60分は楽譜を見て練習を毎日続けていくことが望ましい。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	発生のメカニズムと発声法	16	
2	ピアノ基礎練習	17	
3	譜表と音名・音符と休符	18	
4	コールユーブンゲン1・2・3・/5 指の練習	19	
5	拍子とリズム	20	
6	コールユーブンゲン4・5・6/ハ長調	21	
7	コールユーブンゲン11・12	22	
8	実技試験	23	
9	長音階 コールユーブンゲン13・14ab/マーチ5～8	24	
10	15ab コンコーネ：2/子どもの歌	25	
11	子どもの歌：32・40	26	
12	バイエル30～36	27	
13	子どもの歌：13・15・16・33・41	28	
14	マーチ9～10	29	
15	実技試験	30	
≪ 成績評価方法 ≫ 授業参加態度・実技試験			
≪ テキスト ≫ 講師作成資料			
≪ 実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	音楽表現技術	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	當眞 夏子	単位数	1
		時間数	15
≪ 到達の目標 ≫ 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。			
≪ 講義概要 ≫ 子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。			
≪ 事前事後学習 ≫ 歌唱、ピアノともに練習あるのみです。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	基礎練習 楽曲振り返り	16	
2	コールユーブンゲン：18・19	17	
3	コールユーブンゲン：20・22・23	18	
4	コールユーブンゲン：25・26・28	19	
5	コールユーブンゲン：32・34・36・40	20	
6	ピアノ弾き歌い3～5	21	
7	ピアノ弾き歌い6～8	22	
8	ピアノ弾き歌い10・12・15	23	
9	ピアノ弾き歌い17・19・20・22	24	
10	子どもの歌3・4・5・7	25	
11	子どもの歌8・12・13・16	26	
12	子どもの歌18・20・21・36	27	
13	子どもの歌38・39・42・44	28	
14	復習	29	
15	実技試験	30	
≪ 成績評価方法 ≫ 授業参加態度・実技試験			
≪ テキスト ≫ ・「音楽（声楽教本）」 「音楽（ピアノ教本）」 近畿大学九州短期大学 ・講師作成資料			
≪ 実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	幼児と造形表現	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	佐久本 伸光	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。			
≪講義概要≫ 授業では、実技課題として美術表現技法の技法体験から表現の特徴を学び、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識を習得する。			
≪事前事後学習≫ 自分が使用する材料、道具の準備をきちんと行う。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	美術表現技法「デカルコマニー」制作	16	
2	〃	17	
3	幼児画の発達過程	18	
4	〃	19	
5	幼児画の特徴	20	
6	〃	21	
7	幼児と造形活動	22	
8	〃	23	
9	美術表現技法（体験）	24	
10	〃	25	
11	美術表現技法による作品制作	26	
12	〃	27	
13	共同制作 四季の行事をテーマに制作	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・課題作品			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	教育心理学	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	下地 恭子	単位数	1
		時間数	15

≪到達の目標≫
 発達論、学習論の基礎的知識を修得し、幼児期にある子どもの生活を、理論的に捉えて支え、学びと探究を十全に展開させるための基本的な態度の基礎を形成する。

≪講義概要≫
 幼児期を中心に、生涯にわたる変化の理解に向けて、子どもの発達と学習の過程を学ぶ。

≪事前事後学習≫
 実施に保育の中でどのように新医学の知見を活用できるのかを考え、レポート作成やグループ討議を行うこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	発達に関する基礎概念	16	
2	運動・認知発達について	17	
3	こおばと社会性の発達	18	
4	学びとあそびと環境	19	
5	知識と問題解決	20	
6	学習理論	21	
7	学びや探究を支えるもの	22	
8	学習指導・発達支援の基礎①	23	
9	〃	24	
10	学習指導・発達支援の基礎②	25	
11	〃	26	
12	学習指導・発達支援の基礎③	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

≪成績評価方法≫
 授業参加態度・筆記試験

≪テキスト≫
 ・「保育に生かす教育心理学」 みらい
 ・講師作成資料

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	幼児の心理学	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	下地 恭子	単位数	1
		時間数	15
≪ 到達の目標 ≫ 心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を生かせるようになることを教育目標とする。また、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。			
≪ 講義概要 ≫ 心理学の知見を実際に保育現場でどのように活用できるのかを考えることが重要であり、自ら主体的に考え、学習に取り組む姿勢が必要。			
≪ レポート作成 ≫ 関心のある所、分からなかったところについて、他の文献を調べ、理解を深めてください。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育と教育心理学Ⅰ	16	
2	保育と教育心理学Ⅱ	17	
3	子どもの発達Ⅰ	18	
4	子どもの発達Ⅱ	19	
5	学習行動の基礎	20	
6	学びの動機づけ	21	
7	知的能力の発達	22	
8	パーソナリティーの発達	23	
9	教育・保育における評価	24	
10	発達障害のある子どもの教育・保育	25	
11	保育の中で生かす教育心理学	26	
12	就学に向けて（幼・保・小連携）	27	
13	家庭ぐるみの教育的支援	28	
14	子どもをめぐる教育的問題	29	
15	まとめ	30	
≪ 成績評価方法 ≫ 筆記試験・レポート・出席率			
≪ テキスト ≫ 「保育に生かす教育心理学」 みらい			
≪ 実務経験 ☒ 有 ・ 無 ≫			

科目名	人間関係（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	林 ちあき	単位数	1
		時間数	15

<< 到達の目標 >>
 子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。

<< 講義概要 >>
 子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。

<< 事前事後学習 >>
 幼稚園教育要領及び保育者保育指針の領域「人間関係を」熟読すること。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	領域「人間関係」の観点	16	
2	領域「人間関係」のねらいと内容とは何か	17	
3	〃	18	
4	自己の結成と他者理解	19	
5	集団における事故の発達	20	
6	社会性の発達とあそび	21	
7	協力・競争・排除	22	
8	思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範	23	
9	〃	24	
10	子どものコミュニケーション	25	
11	〃	26	
12	保育者の役割と指導について	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

<< 成績評価方法 >>
 授業参加態度・筆記試験

<< テキスト >>
 講師作成資料

<< 実務経験 ☒ 有 ・ ☐ 無 >>

科目名	幼児と健康	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	平良 章次	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。			
≪講義概要≫ 幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術についても検討する。			
≪事前事後学習≫ 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」の「第2章 子どもの発達」を熟読し、それぞれの段階の発達の特徴について理解を深めること。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	オリエンテーション、アイスブレイキングゲーム	16	
2	コミュニケーションゲーム	17	
3	乳幼児期の運動発達と指導計画の作成について	18	
4	運動あそびの指導計画の作成①	19	
5	〃	20	
6	〃	21	
7	運動あそびの指導計画の作成②	22	
8	〃	23	
9	〃	24	
10	〃	25	
11	運動あそびの指導計画の実践①	26	
12	〃	27	
13	〃	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・実技試験			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	教育原理	学科名	こども文化学科・こども幼児科	
		開講年次	2	
		授業形態	講義	
担当者名	桑江 志麻子	単位数	2	
		時間数	30	
≪到達の目標≫ 教育の本質・意義・昨日に関する理論や知識を習得すること。幼児期の教育の基本原理とその基本原理とその特徴を理解すること。				
≪講義概要≫ 現代社会における教育の諸課題について考察し、自分の考えをまとめられるようになり、どのような教育が望ましいのか、現代社会を生きる子どもたちに必要な教育とは何か、という実践的な課題を念頭において学習を進めることが望ましい。				
≪レポート作成≫ 教育の問題に関心を持って、主体的に課題を探することが出来ているか。文献やインタビューを適切に活用し、新たな知見を獲得できているかを意識する。				
時間	授業計画	時間	授業計画	
1	教育という概念	16	乳幼児期の教育の制度	
2	教育の目的	17	諸外国の学校体系	
3	教育と家族	18	乳幼児期の教育への国際状況	
4	子ども観の今昔	19	諸外国における多様な保育実践	
5	近代幼児教育思想の源流	20	教育方法の基礎	
6	日本の幼児教育と倉橋惣三	21	求められる能力の変化	
7	江戸期における子どもの教育	22	乳幼児期における教育法	
8	近代教育制度の成立と幼児教育の普及	23	教育の内容	
9	大正新教育と幼稚園令の制定	24	教育の計画	
10	戦時下の幼稚園教育	25	教育の評価	
11	新たな教育制度の成立	26	現代社会と生涯学習	
12	保育者養成制度の確立	27	教育・保育現場をめぐる現代的課題	
13	日本国憲法と教育基本法	28	学校安全への対応	
14	学校をめぐる法規と制度	29	連携による教育・保育	
15	教育行政	30	まとめ	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・レポート・出席率				
≪テキスト≫ 「保育のための教育原理」 ミネルヴァ書房				
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫				

科目名	造形表現（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	佐久本 伸光	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 幼稚園教育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領み示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深める。			
≪講義概要≫ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。			
≪レポート作成≫ 作品は赤・黄・青・緑の4原色と白・黒のみ制作します。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼児の造形教育史	16	
2	幼児造形の原理	17	
3	表現（造形）活動の指導	18	
4	指導計画の準備	19	
5	指導計画の立案	20	
6	指導課程	21	
7	指導の形態	22	
8	指導上の留意点	23	
9	評価の観点・方法	24	
10	経験表現の領域	25	
11	観察表現の領域	26	
12	想像表現の領域	27	
13	色彩表現の領域	28	
14	教材と実践	29	
15	まとめ	30	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・レポート・出席率			
≪テキスト≫ 「造形表現（指導法）」 近畿大学九州短期大学			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	造形表現（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	佐久本 伸光	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 幼稚園教育において、育みたい資質・能力を理解し、妖艶教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深める。			
≪講義概要≫ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。			
≪事前事後学習≫ 授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になる為、作品を大切に保管し、制作方法と感想や作品写真で記録する。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼稚園教育の基本、「表現」領域のねらい	16	
2	〃	17	
3	幼児が身につけていく内容と指導上の留意点の理解	18	
4	幼稚園教育における評価の理解	19	
5	「表現」領域で幼児が経験する内容の関連性	20	
6	表現領域における保育構想の重要性と理解	21	
7	「表現」領域で幼児が経験する内容の関連性	22	
8	「表現」領域の特性、保育における情報機器及び教材の活用法	23	
9	指導案の構成、具体的な保育を想定した指導案内容	24	
10	模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点への理解	25	
11	「表現」領域の特性に応じた保育実践の動向	26	
12	〃	27	
13	「造形と表現」実体験からの創作と表現	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・課題提出物			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 ☒ ・ 無 ≫			

科目名	音楽表現（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	眞 夏子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。			
≪講義概要≫ 「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。			
≪事前事後学習≫ 「音楽 ピアノ教本」に記載している「子どもの歌」いー通り目を通し、歌って来て下さい。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	教育要領、保育指針における領域「表現」	16	
2	幼児と音楽表現との関わり	17	
3	幼児への指導法	18	
4	保育者の指導上の留意点。	19	
5	幼児の理解と評価	20	
6	音楽表現あそびの教材・情報収集	21	
7	音楽表現あそび	22	
8	表現あそびの指導計画（指導案作成）	23	
9	模擬保育発表	24	
10	指導・援助についての振り返り	25	
11	小学校音楽の授業につながる音楽あそび	26	
12	小学校音楽の授業につながる音楽あそび	27	
13	様々な素材を使った音楽あそび	28	
14	様々な素材を使った音楽あそび	29	
15	実技試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・実技試験			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	環境（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	具志 須磨子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。			
≪講義概要≫ 子どもの発達における環境の重要性や幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解し、領域「環境」のねらいについて学習する。			
≪事前事後学習≫ 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の部分を読み込んでおくこと。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容・構造	16	
2	領域「環境」の内容と指導上の留意点	17	
3	幼稚園教育における評価と領域「環境」	18	
4	領域「環境」と小学校科目とのつながり	19	
5	幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想	20	
6	〃	21	
7	領域「環境」のねらい達成に向けたＩＣＴ機器の活用法	22	
8	模擬保育にむけた指導案の作成	23	
9	模擬保育	24	
10	〃	25	
11	模擬保育の振り返り	26	
12	〃	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・「領域 環境」 萌文書林 ・講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	言葉（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	與那嶺 由紀子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 人間にとっての言葉の役割・言語獲得の理論を理解する。			
≪講義概要≫ 「保育所保育指針・幼稚園教育要領」における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し実践できる力を身につける。			
≪事前事後学習≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	人間にとって言葉とは	16	
2	言語獲得の諸理論	17	
3	保育内容・言葉を理解する	18	
4	言葉「ねらい」の理解	19	
5	「内容」の理解（コミュニケーション）	20	
6	「内容」の理解（言葉を通した楽しい関わり）	21	
7	「内容」の理解（基本的信頼関係の構築）	22	
8	「内容」の理解（子どもの言葉を引き出す保育者のかかわり）	23	
9	〃	24	
10	「内容」の理解（物語と子どもの表現力・文字への気づき）	25	
11	〃	26	
12	子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・講師作成資料			
≪実務経験 ☒ ・ 無 ☐ ≫			

科目名	幼児と言葉	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。児童文化財（絵本・物語・紙芝居など）について、基礎的な知識を身につける。

《講義概要》

領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。自分の言葉を見つめなおし、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにするよう心掛ける。

《レポート作成》

絵本や物語に多く触れること。子どもの言葉の育ちについて深く考えること。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	言葉とは何か	16	
2	言葉が人間生活の中で果たす役割・機能	17	
3	乳幼児の言葉の特色	18	
4	子どもの発達と言葉の発達	19	
5	言葉の発達と環境	20	
6	言葉の面にあらわれた問題の理解と対応	21	
7	子どもにとって言葉とは	22	
8	幼稚園・保育所・認定こども園の特色と領域「言葉」	23	
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針	24	
10	聞く力を育てるために	25	
11	0～3才児と保護者の関わり	26	
12	4～5才児と保護者の関わり	27	
13	児童文化財を通しての援助と関わり	28	
14	保育評価の活かし方	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「こどもと言葉〈新訂第2版〉」 萌文書林

《実務経験》 有 ・ 無 >

科目名	幼児と人間関係	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	林 ちあき	単位数	1
		時間数	15

≪到達の目標≫
 幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。子どものライフワークにおける人と関わる力の重要性を理解する。

≪講義概要≫
 子どもが本来有している人と関する能力について理解し、そうした能力を引き出すために必要な環境構成のあり方について検討することが求められます。

≪レポート作成≫
 テキストを中心に、子どもを取り巻く社会背景を理解し、子どもへの影響について検討すること。その際、独自に他の文献も調べ、情報収集することが望ましいです。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育の基本と領域（人間関係）	16	
2	子どもを取り巻く社会の状況	17	
3	人間関係のねらい及び内容の取扱い	18	
4	0～2才児における人との関わり の発達と保育者の援助	19	
5	3～5才児における人との関わり の発達と保育者の援助	20	
6	愛着形成の理論と実際	21	
7	こどもの自立心	22	
8	子どもの自己主張と自己発揮	23	
9	いざこざ・けんかなどのトラブル	24	
10	共感・思いやり	25	
11	道徳性・模範意識	26	
12	コミュニケーション能力	27	
13	個と集団の育ち	28	
14	子どもと人間関係	29	
15	まとめ	30	

≪成績評価方法≫
 筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫
 「対話的・深い学びの保育内容 人間関係」 萌文書林

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	幼児と環境	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	講義
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15

<<到達の目標>>
 幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境と関わる力」の発達について理解する。

<<講義概要>>
 教育要領・保育指針の領域「環境」の部分を読み込み、ポイントとなる部分を整理する。

<<レポート作成>>
 教育要領・保育指針の領域「環境」のねらいと内容を把握しておくこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育の基本とは	16	
2	保育内容とは	17	
3	保育の基本とは	18	
4	領域「環境」とは	19	
5	子どもの発達の見方・捉え方	20	
6	「環境とかかわる力」の発達	21	
7	子どもの「環境とかかわる力」をどう理解するか	22	
8	〃	23	
9	教育課程・保育課程と領域「環境」	24	
10	保育者の役割と「環境」	25	
11	領域「環境」と保育の実際	26	
12	領域「環境」と実践上の留意点	27	
13	領域「環境」の変遷	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

<<成績評価方法>>
 筆記試験・レポート・出席率

<<テキスト>>
 ・保育内容「環境」 ミネルヴァ書房

<<実務経験 (有) ・ 無 >>

科目名	図画工作Ⅱ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	佐久本 伸光	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

4原色による絵画や立体構成作品の製作工程、感想文の記述を通して、創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく感性豊かに学び保育者自身が制作を楽しむ姿勢と、造形あそびの表現技術の習得を目指します。

《講義概要》

絵具・のり・はさみなど基礎的な道具・材料の安全で有効な扱い方を学ぶ。国や地域に伝わる文化や表現を知り、身近な素材を活用し自由な創作を楽しむ。

《レポート作成》

作品は4原色のみで制作します。制作する前に、獅子頭について調べ、その歴史や形の表現について知る。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼児の造形教育史	16	
2	幼児造形の原理	17	
3	表現（造形）活動の指導	18	
4	指導計画の準備	19	
5	指導計画の立案	20	
6	指導課程	21	
7	指導の形態	22	
8	指導上の留意点	23	
9	評価の観点・方法	24	
10	造形教育の基礎技術	25	
11	経験・観察表現の領域	26	
12	想像・色彩表現の領域	27	
13	教材と実践	28	
14	絵を描く・モノを作る材料	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「図画工作Ⅱ」近畿大学九州短期大学

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	児童文化	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

大人が子ども達のために作ったり、子どもたち自身が作ったりしながら、遊びの中で子ども達に共有され、楽しまれ、仲間や次の世代へ伝えられていくものである。

《講義概要》

児童文化の歴史や現在の児童文化を取り巻く環境を学んで欲しいとともに、様々な児童文化財についてしっかりと学習していくと、保育の現場でも大いに役に立つことができるので自分なりに工夫をして学習すること。

《レポート作成》

遊びは重要であることをしっかりとアピールしたレポートにしてまとめること。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	児童文化について	16	
2	遊びとスポーツ	17	
3	造形と音楽	18	
4	お話と劇	19	
5	テレビと映画	20	
6	本と雑誌	21	
7	おもちゃと遊具	22	
8	あそび場と施設	23	
9	児童文化運動	24	
10	児童文化活動	25	
11	人形劇の作り方と演じ方	26	
12	紙芝居の作り方	27	
13	紙芝居の演じ方	28	
14	おもちゃの作り方	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「児童文化」 近畿大学九州短期大学

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	児童文化	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し時間の許す限り実習も行い児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。			
≪講義概要≫ 児童文化とは何か、歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化についての知識を深める。又、子どもたちへ児童文化財をつくる。			
≪事前事後学習≫ 伝承遊びについて興味・関心を持ち、自ら遊ぶことができ、子どもたちに指導できるようになる。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	児童文化とは何か。	16	
2	児童憲章における児童文化。	17	
3	歴史にみる子ども存在。	18	
4	日本での児童文化。	19	
5	現状の児童文化。	20	
6	グループワーク 児童文化財の製作①	21	
7	グループワーク 児童文化財の製作②	22	
8	グループワーク 児童文化財の製作③	23	
9	グループワーク 児童文化財の製作④	24	
10	指導計画案作成及び練習	25	
11	グループごとの部分実習練習	26	
12	〃	27	
13	グループごとの部分実習発表	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・課題提出物			
≪テキスト≫ ・「児童文化」 近畿大学九州短期大学 ・講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	社会福祉	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	照屋 徹	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

現代社会における社会福祉の全体像を理解するとともに、保護者の子育て支援の方法などを考えていく。

《講義概要》

多くの学生さんは仕事や家庭を持っていることでしょう。そのような状況の下で自分なりの人生設計の実現のために頑張っていきましょう。

《レポート作成》

新聞記事などで社会福祉関係のニュースが伝えられていますので、それらに可能な限り目を通していくようにしましょう。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	社会福祉とは	16	ノーマライゼーション
2	日本の社会福祉の歴史	17	医療福祉
3	第2次世界大戦後の社会福祉	18	精神保健福祉
4	社会保障制度	19	社会福祉施設の体系
5	社会福祉を展開する組織	20	社会福祉施設の推移
6	子ども福祉	21	社会福祉施設の枠組み
7	児童虐待	22	今後の課題
8	障がい者福祉	23	社会福祉を担う人々
9	障がい者総合支援法	24	社会福祉専門職の資格制度
10	高齢者福祉	25	相談援助の目的
11	高齢者を対象とした法制度	26	相談援助活動のプロセス
12	介護保険制度	27	社会福祉の実践事例
13	チームアプローチの必要性	28	社会福祉に関する諸問題の例
14	低所得者福祉	29	保健医療従事者に期待されるおもな役割
15	地域社会とその推進方法	30	まとめ

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「コメディカルのための社会福祉概論」 講談社

《実務経験》 ☒ 有 ☐ 無

科目名	子ども家庭福祉	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	照屋 徹	単位数	2
		時間数	30
《到達の目標》			
子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。又、保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。			
《講義概要》			
子ども家庭福祉は、子どもと家庭に関する幅広い内容を学習します。まず、テキスト全体に目を通して「子ども家庭福祉」の概要を理解してください。			
《レポート作成》			
テキスト全体に目を通して、子ども家庭福祉の全体像を捉えることが大切です。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	少子高齢社会と子どもの健全育成	16	養護を必要とする子どもへの施策
2	子どもの遊びの変化	17	ひとり親世帯の施策
3	地域社会の変化	18	障害のある子どもへの施策
4	イギリスにおける子ども家庭福祉の歴史	19	母子保健施策
5	アメリカにおける子ども家庭福祉の歴史	20	健全育成の理念
6	日本における子ども家庭福祉の歴史	21	保育サービスの多様化
7	子ども家庭福祉の理念	22	認定こども園
8	児童家庭福祉六法 ①	23	子ども・子育て支援新制度による保育サービス
9	児童家庭福祉六法 ②	24	認可外保育サービス
10	その他の児童福祉に関する法律	25	保育に関する課題
11	行政及び審議機関	26	少子化対策
12	子ども家庭福祉の財政と費用	27	育児休業制度など
13	児童家庭福祉施設とは	28	就労支援
14	児童家庭福祉施設の種類	29	新たな少子化対策
15	虐待の防止と支援	30	まとめ
《成績評価方法》			
筆記試験・レポート・出席率			
《テキスト》			
「児童家庭福祉 第3版」 ミネルヴァ書房			
《実務経験 (有) ・ 無 》			

科目名	保育原理	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	佐藤 田鶴子	単位数	2
		時間数	30
《到達の目標》 保育の意義、保育所保育指針における保育の基本など基本的な内容を理解する。又、保育の現状と課題について考察する。これらを通して、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つことを目標とする。			
《講義概要》 関心を持った事柄などについては、テキスト巻末の参考文献などにあたりさらに理解を深めるとよいでしょう。			
《レポート作成》 テキストに書かれていた主要な概念を使ったり、テキスト上の内容を要約したりしながら理論的に述べるのが大切です。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	乳幼児の特質と保育の意義	16	保育内容の変遷
2	乳幼児期の発達的特質	17	保育の方法形態
3	幼児の思考	18	保育方法の基本原則
4	言葉・情動の発達	19	遊びの意義
5	保育思想の変遷	20	保育の計画
6	児童観の変遷	21	指導計画の作成
7	近代幼児教育思想の形成	22	記録の取り方
8	近代保育施設	23	保育の評価
9	制度の創設と発展	24	幼稚園と保育所の今後
10	各国の保育	25	幼保一元化
11	わが国における幼稚園の成立と変遷	26	認定こども園
12	わが国における保育所の成立と変遷	27	保育所民営化
13	幼稚園の保育目的と規定	28	保育の多様化
14	保育所の保育目的と規定	29	社会状況の変化と保育施策
15	その他の保育目的と規定	30	まとめ
《成績評価方法》 筆記試験・レポート・出席率			
《テキスト》 「保育原理」 近畿大学九州短期大学			
《実務経験》 (有) ・ 無 »			

科目名	社会的養護Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	林 ちあき	単位数	2
		時間数	30

≪到達の目標≫
 社会的養護の意義・歴史的返還の把握を基盤に、児童の人権擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察する。

≪講義概要≫
 新聞、テレビ等における社会的養護の関連する事について関心を持ち、考える習慣を身につける。

≪レポート作成≫
 テキストと参考文献などを熟読し、設問の意味をよく理解した上で、自らのことばで、自らの考えを織り込んで、推敲を重ねながら、レポートを作成すること。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	社会的養護の理念	16	社会的養護にけるソーシャルワークの意義
2	社会的養護の概念	17	社会的養護にけるソーシャルワークのプロセス
3	社会的養護の歴史的変遷	18	児童虐待と社会的養護
4	子ども観の変遷	19	家庭養護
5	子どもの人権擁護	20	施設養護
6	子どもの社会的養護	21	社会的養護にかかわる専門職
7	児童福祉法の2016年改正	22	社会的養護に関する社会的状況
8	アイデンティティの形成と強化	23	施設などの運営管理の現状
9	社会的養護における保育士等の倫理	24	施設などの運営管理の課題
10	社会的養護の制度の根幹	25	被措置児童等の虐待防止の現状
11	社会的養護の基本法	26	被措置児童等の虐待防止の課題
12	社会的養護のしくみ	27	社会的養護と地域福祉の現状
13	社会的養護の実施体系	28	社会的養護と地域福祉の課題
14	ソーシャルワークの定義	29	まとめ
15	社会的養護にけるソーシャルワークの意義	30	筆記試験

≪成績評価方法≫
 筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫
 「新・基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ」 中央法規出版

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	社会的養護Ⅱ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	林 ちあき	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 社会的養護施設の機能と役割などを理解する。			
≪講義概要≫ 家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における擁護の理解を深める。			
≪事前事後学習≫ 新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起きていることを情報収集する。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	児童の権利擁護について	16	
2	児童の最善の利益について	17	
3	里親制度の特性と養育の実際	18	
4	乳児院・児童養護施設などの養育をめぐる状況と支援の実際	19	
5	ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際	20	
6	情緒障害のある子どものための施設と支援の実際	21	
7	障害児施設の療育と支援の実際	22	
8	自立支援計画	23	
9	子どもへの支援における記録について	24	
10	里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり	25	
11	虐待された子どもと家族への支援	26	
12	施設と家族との関わりと地域との連携	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ ・ 授業参加態度 ・ 筆記試験			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 ☒ ・ 無 ☐ ≫			

科目名	子ども家庭支援論	学科名	こども文化学科・こども 幼児科	
		開講年次	2	
		授業形態	講義	
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	2	
		時間数	30	
≪到達の目標≫ 現在の保育所が求められているのは、地域における子育てセンターとしての役割である。子育てを通し親や地域社会への援助の必要性和その方法を理解する。				
≪講義概要≫ 子育てのプロフェッショナルとして、子どもだけでなく親や親を取りまく様々な環境に働きかけるスキルと理論、物事を多角的に分析する力を身につけてほしい。				
≪レポート作成≫ 新聞などのメディアを通じて、あるいは身のまわりを観察する事で現代の社会状況を知るように努め、常に自分がどう考えどう対処するかをイメージする。				
時間	授業計画	時間	授業計画	
1	家庭支援が求められる背景と意義	16	家庭への個別的な支援	
2	家庭支援の類型	17	援助計画の作成・実施	
3	子どもと家庭	18	住宅子育て家庭への支援	
4	乳幼児の子どもと家庭・子育て	19	社会的養護を要する家庭への支援	
5	学童児の子どもと家庭	20	家庭支援にかかわる法・制度	
6	思春期の子どもと家庭	21	子ども・子育てに関わる条約	
7	家庭支援における保育者の役割	22	子ども・子育てに関わる法律	
8	保育所保育指針	23	子ども・子育てに関わるその他の法律	
9	幼稚園教育要領	24	子どもと家庭を支える機関や人①	
10	幼保連携型認定こども園	25	子どもと家庭を支える機関や人②	
11	家庭支援における保育者の姿勢	26	登園児の親子の観察から始まる保育相談支援の事例	
12	家庭支援における保育者の倫理	27	保育所における子どもの虐待への支援事例	
13	保育現場に求められる家庭支援	28	虐待を受けて児童養護施設に入所している子どもの事例	
14	保育相談支援	29	児童福祉施設に入所している子どもの家庭復帰の支援	
15	特別なニーズを有する家庭とは	30	まとめ	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・レポート・出席率				
≪テキスト≫ 「よくわかる家庭支援論 第2版」 ミネルヴァ書房				
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫				

科目名	幼児への特別な支援	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	西原 千男	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

特別の支援を必要とする幼児（知的障害・発達障害・肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等）の心身の発達と心理的特性および学習の過程を理解する。

《講義概要》

テキストだけでなく、さまざまな文献を読み、特別支援教育に関する理解を深める。

《レポート作成》

テキストのみを文献とするのではなく、他の文献に書かれている内容と比較検討して、レポートに記載する内容を決めておくこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	障害児保育とは何か	16	
2	障害児保育の仕組み	17	
3	知的障害の特徴と保育での支援	18	
4	自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援	19	
5	注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援	20	
6	学習障害の特徴と保育での支援	21	
7	その他の障害の特徴と保育での支援	22	
8	インクルーシブ保育とは	23	
9	保育所・幼稚園での支援体制	24	
10	家族への支援	25	
11	障害児へのアセスメント	26	
12	心理検査による子ども理解①・②	27	
13	心理検査による子ども理解③	28	
14	発達支援の技法	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「よくわかる障害児保育 第2版」 ミネルヴァ書房

《実務経験》 有 ・ 無 《

科目名	障害児保育	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	西原 千男	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 障害児保育の対象となる障害の特徴について理解する。			
≪講義概要≫ 障害児保育の歴史と理念について学び、各障がいについての理解を深めていく。			
≪事前事後学習≫ 各自特別支援教育や障害児保育に関連する書籍を積極的に読む。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	障害児保育の歴史と理念	16	
2	乳幼児期の発達的問題	17	
3	知的遅れのある子どもの保育	18	
4	からだの不自由な子どもの保育	19	
5	自閉症スペクトラム障害の理解	20	
6	〃	21	
7	自閉症スペクトラム障害の保育現場における支援	22	
8	〃	23	
9	A D H D の理解	24	
10	A D H D の保育現場における支援	25	
11	視覚障がいの理解と支援	26	
12	就業に向けて	27	
13	保護者への支援	28	
14	障害児保育の実践	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ ・ 授業参加態度 ・ 筆記試験			
≪テキスト≫ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	子どもの食と栄養	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	国吉 美佐江	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養学、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。

《講義概要》

保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。

《レポート作成》

テキストには必ず目を通して、参考文献も何冊か読んでおくこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	子どもの健康と食生活の意義	16	
2	栄養に関する基本的知識	17	
3	子どもの発育・発達と食生活	18	
4	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント	19	
5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	20	
6	幼児期の心身の発達食生活	21	
7	学齢期・思春期の心身の発達と食生活	22	
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	23	
9	障害の特徴と食生活	24	
10	障害のある子どもの食生活の実際	25	
11	児童福祉施設における食生活と栄養	26	
12	児童福祉施設の食事計画の基本的方針	27	
13	食育の基本的考え方	28	
14	食育の方法	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養」 北大路書房

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	子どもの保健Ⅰ①	学科名	こども文化学科・こども 幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	本村 邦子	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明できる。

《講義概要》

子どもを取り巻く環境は時代とともに大きく変化し、課題も様々です。子どもが心身ともに健全に発育するために、大人はどうあればいいのか考えていく。

《レポート作成》

参考文献やインターネット等で十分な資料を収集してください。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	小児保健とは	16	3～5才児の生活
2	身体発育	17	子どもの疾病と保育①
3	身体保健	18	子どもの疾病と保育②
4	生理機能の発達と保健①	19	環境整備、事故防止
5	生理機能の発達と保健②	20	環境整備、安全管理
6	運動機能の発達と保健①	21	保健活動の計画及び評価
7	運動機能の発達と保健②	22	救急時の初期対応
8	精神機能の発達と保健①	23	発熱及び熱中症
9	精神機能の発達と保健②	24	頭が痛い
10	精神保健とは	25	嘔吐した
11	育児環境と・精神環境	26	うんちに血が混じっている
12	虐待について	27	やけどした
13	子どもの生活と健康	28	不随意分銅
14	乳児の生活	29	息をしていない
15	1～2才児の生活	30	まとめ

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「よくわかる子どもの保健 第3版」 近畿大学九州短期大学

《実務経験》 (有) ・ 無 »

科目名	子育て支援	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	照屋 徹	単位数	1
		時間数	15

≪到達の目標≫
 子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係結成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につけること。

≪講義概要≫
 「事例」を通して子育て支援・社会福祉援助活動の現状。

≪事前事後学習≫
 事後学習としては、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深めてください。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	子どもを巡る経済・社会状況	16	
2	〃	17	
3	子育て支援と行政	18	
4	子育て支援と地域社会	19	
5	子ども・保護者と保育士	20	
6	〃	21	
7	関係機関・専門職などとの連携	22	
8	関係機関・専門職などとの協力	23	
9	関係機関・専門職などとの協同	24	
10	社会資源の活用・利用方法	25	
11	〃	26	
12	社会福祉援助技術 事例研究	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

≪成績評価方法≫
 ・授業参加態度 ・ 筆記試験

≪テキスト≫
 ・講師作成資料

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	劇あそび（指導法）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	平良 章次	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。

《講義概要》

「領域」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊びの内容と意義について学習する。

《事前事後学習》

授業の内容をしっかりと記録し、復習ノートの作成を行う。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	領域「表現」のねらいと内容	16	
2	身ぶり表現の発達	17	
3	身ぶり表現活動の発展と指導法	18	
4	身ぶり表現活動評価の考え方	19	
5	幼児の音楽表現	20	
6	〃	21	
7	「劇あそび」の意義と役割	22	
8	「劇あそび」の意義と役割	23	
9	「劇あそび」における援助	24	
10	「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成	25	
11	課題の創作	26	
12	グループ発表と鑑賞・振り返り	27	
13	表現を育てる保育	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

・授業参加態度　：実技試験

《テキスト》

講師作成資料

《実務経験　有　・　無　》

科目名	保育の心理学	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	講義
担当者名	大城 信哉	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とします。

《講義概要》

テキストや参考文献で学んだ知識を、いつも子どもたちの姿にダブらせることで、より深い理解を得ることができるでしょう。

《レポート作成》

テキストを熟読しテキストの内容をしっかりと理解して、内容を要約して記述し、参考文献などで内容を膨らませていきましょう。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	発達心理学の課題	16	
2	発達についての理論	17	
3	言語の発達	18	
4	知的発達	19	
5	環境と発達	20	
6	感情の発達	21	
7	社会性の発達	22	
8	道徳性の発達	23	
9	青年期の発達	24	
10	青年期の心理的な特徴	25	
11	成人期の生活	26	
12	女性の時代	27	
13	老齢期の生活	28	
14	現代社会と発達	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「発達心理学」 近畿大学九州短期大学

《実務経験》 (有) ・ 無 »

科目名	子ども家庭支援の心理学	学科名	福祉保育科・幼児教育科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	宮川 名子	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。

《講義概要》

現代における社会的な状況を理解した上でどのような家庭支援を行えると良いか、普段から意識しておくことが大事です。

《レポート作成》

作成にあたっては論旨を明確にして、読み手に何を伝えたいか整理しつつ論を展開して下さい。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	新生児期・乳児期	16	高度生殖医療と喪失
2	言葉の発達	17	ライフコースとは
3	認知・言語の発達	18	制役割分業とライフコース
4	社会性・自我の発達	19	多様な家庭・家族
5	学童期の発達	20	子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題
6	青年期の発達	21	特別な配慮を要する家庭
7	成人期・中年期の発達	22	子どもの育ちの基本
8	中年期危機とは	23	子どもの環境とソーシャルメディア
9	高齢期の発達	24	特殊な環境で育つということ
10	高齢者の支援・かかわり	25	子どもの習癖
11	家族・親族・世帯とは	26	気になる子どもと発達障害
12	支援者として家庭にどう向き合うか	27	発達障害とは
13	家族関係・親子関係の理解	28	保育園・幼稚園・学校における子どもの攻撃的な行動
14	子育ての経験と親としての育ち	29	まとめ
15	子育てを取り巻く社会的状況	30	筆記試験

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

・「子ども家庭支援の心理学」 中央法規出版

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	教育課程総論	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	宮川 名子	単位数	2
		時間数	30

≪ 到達の目標 ≫

教育課程の目的や意義に関して、基本的な理解が深められること。幼児期の特性をふまえ、幼児教育課程のあり方に対する理解が深められること。

≪ 講義概要 ≫

教育課程は、幼児が園で過ごす時間の全体をデザインするものであり、教育の目的や目標を表すものでもあります。ほかの科目を共通する知識も多くありますので関心を持って学んで下さい。

≪ レポート作成 ≫

教育課程の考察には幅広い視野での配慮が必要となりますので、じっくりと内容を吟味しつつ取り組んでください。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	乳幼児の発達	16	目的・目標・ねらいの意味
2	幼児期の発達課題	17	幼稚園教育の目的と目標
3	生涯学習における幼児期の意義	18	園の教育目標
4	教育課程の概念	19	ねらい・内容とその領域
5	幼稚園・保育所・認定こども園の基本的な性格	20	教育課程編成の手順
6	幼稚園・保育所から認定こども園への流れ	21	指導の意義
7	保育のあり方、その思想と現実	22	指導計画の意義
8	教育課程に関する法制	23	指導計画の作成
9	幼稚園教育課程の基準の変遷	24	教育評価の意義
10	環境を通して行う教育	25	指導計画と指導の評価
11	幼児期にふさわしい生活の展開	26	教育家庭の評価
12	遊びを通しての総合的な指導	27	A園の教育課程
13	一人ひとりの発達の特性に応じた指導	28	B園の教育課程と長期指導計画
14	遊びとは何か	29	C園の教育課程と長期指導計画と特色ある年間計画
15	楽しさをどうとらえるか	30	まとめ

≪ 成績評価方法 ≫

筆記試験・レポート・出席率

≪ テキスト ≫

「あたらしい幼児教育課程総論」 同文書院

≪ 実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	教育方法論	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	下地 恭子	単位数	2
		時間数	30

≪到達の目標≫

教育の方法に関する理論的知識を習得すること。乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し説明できること。

≪講義概要≫

乳幼児期の教育現場においてその知識を活かし、遊びを中心とした教育実践を構想することを意識して下さい。

≪レポート作成≫

自分自身の幼年期の体験や保育の体験などをテキストの説明と重ね合わせ、実感を伴った理解へと深めていくことが大切。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育という方法	16	ロジェクト・アプローチ
2	児童中心主義保育の流れ	17	ティーム保育
3	環境を通しての教育	18	保育における評価
4	気づき、考える楽しさへ誘う	19	保育の省察と記録
5	遊びを通しての指導	20	外に開かれる評価
6	自由な遊びの中の不自由さ	21	小学校の接続・連携
7	幼児の主体性の育成と見えない保育	22	遊びと、生活科、総合的な学習
8	子どもの主体性と保育者の意図	23	強化の学びの萌芽に満ちた遊び
9	保護者の様々な役割	24	円滑な接続のための幼小連携
10	遊びの中の学びを規定するもの	25	家庭と連携した保育
11	感じる・表現する遊び	26	地域と連携した保育
12	気付く・試す・考える遊び	27	基本的な生活習慣の育ちを支援する
13	友達と関わってする遊び	28	子どもの健やかな育ちを支援する
14	共通の目的を見出し協同する遊び	29	園生活に困難を抱える子どもを支援する
15	保育形態のタイプ	30	まとめ

≪成績評価方法≫

筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫

「幼児教育の方法」 北大路書房

≪実務経験 有・無≫

科目名	教職概論	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	上門 清春	単位数	2
		時間数	30

≪到達の目標≫
 教職概論は教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して現在の保育者に何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかのかについて自分なりの見識を有することを目標とする。

≪講義概要≫
 関心を持った事柄やレポートを作成する上でさらに学習が必要な箇所については、テキストに示されている参考文献で学習してください。

≪レポート作成≫
 レポートは、教職や保育所に関する基礎的な内容を理解できているかどうかを見るものです。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	教育について考える	16	専科教員とは
2	教師について考える	17	チームとしての学校とは
3	教師としての資質能力	18	カウセリングとは
4	教師としての生活	19	カウンセリンマインドとは
5	近代的学校制度の創設と教師	20	教育の場での対応
6	国家主義的教育体制の確立下における教師	21	教師の新たな役割
7	大正期の教師	22	学校における社会体験とキャリア体験
8	戦時下の教師	23	教師と法律の関係
9	戦後の教師	24	臨教審の発足と教育制度改革
10	社会的発達環境の変容	25	臨教審以後の教育制度改革の動向
11	仲間集団の現像と子どもの社会的発達	26	教育の質を高めるために
12	地域社会の教育力の再構成	27	管理職研修など
13	幼稚園・保育所のクラス担任の1日	28	教育への道
14	幼稚園・保育所の遊び	29	公立・私立幼稚園の場合
15	小学校での学び	30	まとめ

≪成績評価方法≫
 筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫
 「〈新訂〉教職入門 未来の教師に向けて 改訂版」 萌文書林

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	教育実習事前事後指導	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識を理解する。

《講義概要》

①幼児期の発達段階 ②幼稚園の機能と役割 ③幼稚園教諭の職務と役割 ④観察記録の作成方法 ⑤指導計画の立案方法の理解を深める。

《事前事後学習》

子ども・子育て支援制度など、幼児教育や子育てに関わった現代的な課題を新聞などの情報によって確認し、把握しておくこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	教育実習の意義	16	
2	幼稚園の機能と役割	17	
3	幼稚園の法的根拠	18	
4	幼稚園教育を取り巻く状況	19	
5	幼稚園職員の職務と役割	20	
6	幼児期の発達課題と生活課題	21	
7	実習園選定に向けた情報収集の方法	22	
8	観察・参加実習における記録作成の意義と方法	23	
9	指導計画の作成方法①	24	
10	〃	25	
11	指導計画の作成方法②	26	
12	〃	27	
13	指導計画の作成方法③	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

《成績評価方法》

・ 授業参加態度 ・ 筆記試験

《テキスト》

・ 「幼稚園事前実習指導」 近畿大学九州短期大学

・ 講師作成資料

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	保育内容総論	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	宮川 名子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することが出来る。			
≪講義概要≫ 「保育所保育指針解説」を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。			
≪事前事後学習≫ 事前に「保育所保育指針解説書」第1章「総則」に目を通しておくこと。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育の基礎知識①	16	
2	保育の基礎知識②	17	
3	保育の基本原理①	18	
4	保育の基本原理②	19	
5	保育内容の理解①	20	
6	保育内容の理解②	21	
7	指導計画立案の考え方・書き方	22	
8	〃	23	
9	子どもの発達過程に応じた保育	24	
10	〃	25	
11	遊びと保育	26	
12	保育所保育をめぐる論点と議論	27	
13	小学校との接続・共生の保育	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	教育相談	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	上門 清春	単位数	2
		時間数	30

≪到達の目標≫

幼児理解を個と集団の支援から理解する。幼児の不応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。

≪講義概要≫

子どもの問題（虐待、不登校、いじめ等）や子育て支援をめぐるニュースなどにも日頃から目を通していき、「自分はどのように考えるか」常に考えてほしい。

≪レポート作成≫

テキストの内容について、自分の経験を振り返って結び付けながら、理解を深めていくこと。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	よりよい子育て支援のために	16	養育困難をかかえる保護者への支援
2	子育て支援に生かすカウンセリングの理論	17	虐待が疑われる家庭への支援
3	来談者中心療法	18	障害のある子どもをもつ保護者への支援
4	精神分析	19	障がいの特性を学ぶことの大切さ
5	アドラー心理学	20	精神疾患の可能性を考えること
6	ユング心理学	21	保護者世代にみられる精神疾患の理解と支援
7	交流分析	22	親になるということ
8	行動療法	23	共に成長する親同士の関係づくり
9	ブリーフセラピー	24	S G E とは
10	子育て支援に生かすカウンセリングの技法	25	S G E の進め方
11	日常の保護者との関わり方 事例①	26	親の会の運営
12	日常の保護者との関わり方 事例②	27	子育ての仲間をつくる
13	日常の保護者との関わり方 事例③	28	保護者同士の関係
14	日常の保護者との関わり方 事例④	29	自己と向き合う
15	日常の保護者との関わり方 事例⑤	30	まとめ

≪成績評価方法≫

筆記試験・レポート・出席率

≪テキスト≫

「子育てカウンセリング ～幼稚園・保育所で行う心のサポート～」 図書文化

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	言語表現	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	與那嶺 由紀子	単位数	1
		時間数	15

≪到達の目標≫
 表現技術のひとつとしての言語表現について、基礎知識・技術を習得する。

≪講義概要≫
 知識に関しては、昔話・絵本などに多く接し、言葉と表現力について学ぶ。

≪事前事後学習≫
 普段の生活の中で、言葉に敏感になり、様々な文章にふれておく。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	子どもの言葉と表現力	16	
2	〃	17	
3	絵本・物語の魅力	18	
4	おすすめの絵本紹介	19	
5	〃	20	
6	読み聞かせの基本	21	
7	読み聞かせの実践	22	
8	〃	23	
9	昔話にふれる	24	
10	言葉のあそび ①構成	25	
11	言葉のあそび ②制作	26	
12	言葉のあそび ③仕上げ	27	
13	子どもの言語表現力	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

≪成績評価方法≫
 授業参加態度・筆記試験

≪テキスト≫
 ・講師作成資料

≪実務経験 (有) ・ 無 ≫

科目名	保育・教職実践演習	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	講義
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技術の習得を確認する。

《講義概要》

保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論などを組み合わせ行う。

《レポート作成》

保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技能の中で、自己に欠けている課題を把握する。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼児教育の理解	16	
2	乳幼児・児童についての理解	17	
3	保育実践における知識と技能	18	
4	保育実践における知識と技能	19	
5	実習の評価に基づく自己分析	20	
6	保育実践における知識と技能	21	
7	体育・遊びの指導の実際	22	
8	造形の指導の実際	23	
9	行事の指導の実際	24	
10	現在の幼児教育にかかわる諸問題	25	
11	現在の保育にかかわる諸問題	26	
12	幼保小連携または保護者・地域との連携について	27	
13	現在の幼児教育・保育にかかわる諸問題	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「保育・教職実践演習」 近畿大学九州短期大学

《実務経験》 (有) ・ 無 >

科目名	保育・教職実践演習	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	真栄城 かの子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。			
≪講義概要≫ 3年間の学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。			
≪事前事後学習≫ 保育者として必要なコミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育者としての自己分析	16	
2	保育者としての社会的使命	17	
3	保育者としての役割	18	
4	保育者としての教育的愛情	19	
5	保育・教育職の意義	20	
6	保育・教育職の職務内容	21	
7	家庭・地域社会との連携	22	
8	子ども・保護者との信頼関係の構築	23	
9	ロールプレイ（保護者への対応）	24	
10	〃	25	
11	ロールプレイ（反省）	26	
12	ロールプレイ（討論）	27	
13	ロールプレイ（発表）	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・講師作成資料			
≪実務経験 ☒ 有・ ☐ 無≫			

科目名	乳児保育Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	佐藤 田鶴子	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

子どものあるがままの姿を理解し保育できるように、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。

《講義概要》

保育の実践とテキストなどで得る知識や技術をリンクさせることで、乳児保育の理解を確実なものにすることができるでしょう。

《レポート作成》

レポートの設題を的確に理解し、把握してください。その上で課題に関する箇所を熟読し、さらに参考文献などで学習を深めてください。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	乳児保育はなぜ必要か	16	乳児とのふれ合いの基本
2	乳児保育の成り立ち	17	乳児の衣服の基礎知識
3	子ども・子育て支援新制度	18	衣服の着せ方・脱がせ方
4	児童福祉法	19	おむつ替えと「おむつはずれ」
5	保育所保育指針	20	人工乳・冷凍乳の扱いを学ぶ
6	保育所保育指針における乳児保育①	21	離乳食の基礎知識
7	保育所保育指針における乳児保育②	22	沐浴・清拭のしかた
8	人生の基礎としての乳児期	23	保育環境の衛生管理
9	乳児のこころの発達	24	かみつき・ひっかきへの対応
10	乳児の言葉の発達	25	乳児保育における安全管理
11	乳児のからだ	26	連絡帳の書き方
12	乳児保育における複数担任制	27	乳児の笑顔を引き出すために
13	年齢別デイリープログラム	28	乳児との絆を深めるために
14	保護者との連携を考えよう	29	乳児の創造力を育むために
15	発達の遅れと向き合う	30	まとめ

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」 同文書院

《実務経験》 (有) ・ 無 >

科目名	乳児保育Ⅱ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	面接
担当者名	佐藤 田鶴子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 乳児保育の理念と歴史的変遷や乳児保育の役割について学ぶ。			
≪講義概要≫ 乳児保育の歴史や役割、乳児期の発達や子育て支援などの基礎的知識を学ぶ。			
≪事前事後学習≫ 乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことなど感じたことを整理しておく。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	乳児保育とは何か。	16	
2	乳児保育の重要性。	17	
3	乳児保育の基本とその歴史的変遷	18	
4	乳児保育における基本的知識と援助	19	
5	乳児期の発達	20	
6	0～2才児の発達と保育内容	21	
7	ことばの発達と保育者の対応	22	
8	現代の母親と子育て	23	
9	保育者と保護者との連携と子育て支援	24	
10	子育て支援	25	
11	発達の遅れと向き合う	26	
12	沐浴人形を使用しての実践	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ ・ 授業参加態度 ・ 筆記試験			
≪テキスト≫ ・ 「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」 同文書院 ・ 講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	子どもの健康と安全	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	大城 弘子	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。			
≪講義概要≫ グループワーク、グループ討議を行う。			
≪事前事後学習≫ 子ども、健康、応急処置などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について、日常的に興味、関心を持つようにすること。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	子どもの保健について	16	
2	心肺蘇生法（A E D）	17	
3	身体測定（モデル人形）	18	
4	沐浴（モデル人形）	19	
5	バイタルサインの測定法	20	
6	子どものケガ、発熱等に対するの応急処置	21	
7	〃	22	
8	〃	23	
9	感染症の対処方法	24	
10	〃	25	
11	グループ発表	26	
12	〃	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・講師作成資料			
≪実務経験 ☒ ・ 無 ≫			

科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	1
		時間数	7.5
<< 到達の目標 >> 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。			
<< 講義概要 >> 保育所の実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。			
<< 事前事後学習 >> 手遊び、歌あそび、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	保育実習の全体の流れ	16	
2	保育所実習の意義	17	
3	保育所実習の目的	18	
4	保育所実習の内容	19	
5	保育所の1日の流れとデイリープログラムの理解	20	
6	実習日誌の書き方	21	
7	指導案の書き方	22	
8	筆記試験	23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
<< 成績評価方法 >> ・ 授業参加態度 ・ 筆記試験			
<< テキスト >> ・ 「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 同文書院 ・ 講師作成資料			
<< 実務経験 有 ・ 無 >>			

科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	面接
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	1
		時間数	7.5
≪到達の目標≫ 施設の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。			
≪講義概要≫ 児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。			
≪事前事後学習≫ 児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	施設実習に関する基礎知識	16	
2	施設実習に関する諸注意	17	
3	施設における保育内容	18	
4	施設における養護	19	
5	施設の役割と機能	20	
6	実習日誌の書き方	21	
7	指導案の書き方	22	
8	筆記試験	23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
≪成績評価方法≫ ・授業参加態度 ・ 筆記試験			
≪テキスト≫ ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 同文書院 ・講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	保育実習事前事後指導Ⅱ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	面接
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	1
		時間数	7.5
≪到達の目標≫ 指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。			
≪講義概要≫ 実習計画作成、実践、日誌の記録などより実践的な内容を学習する。			
≪事前事後学習≫ 実習に向けた自己課題を明確にしておく。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	実習園を知る	16	
2	実習のポイント	17	
3	実習日誌の書き方	18	
4	部分実習	19	
5	責任実習	20	
6	まとめ	21	
7	筆記試験	22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
≪成績評価方法≫ 授業参加態度・筆記試験			
≪テキスト≫ ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院 ・講師作成資料			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	実習
担当者名	真栄城 かの子	単位数	2
		時間数	10日間
≪到達の目標≫ 保育現場で保育を経験する事により、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるのか理解することが出来る。			
≪講義概要≫ 「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。			
≪事前事後学習≫ 各自の実習のねらい、課題を明確にする。			
NO	実習目標		
1	保育所の内容、機能について理解する。		
2	保育所における子どもの理解。		
3	保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。		
4	日誌や指導案の書き方を学ぶ。		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
≪成績評価方法≫ 実習園の評価・日誌評価・勤務状況			
≪テキスト≫ ・「幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）」 チャイルド社 ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院			
≪実務経験 ☒ 有 ☐ 無≫			

科目名	保育実習Ⅰ（施設）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	実習
担当者名	稲嶺 昭子	単位数	2
		時間数	10日間

≪到達の目標≫
 ・施設現場で擁護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することが出来る。

≪講義概要≫
 子どもや障害者への理解を深める。

≪事前事後学習≫
 各自の実習のねらい、課題を明確にする。

NO	実習目標
1	施設の内容、機能を理解する。
2	施設保育士の職務内容及び役割、また他の職員とのチームワークなどの理解
3	子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する
4	日誌の書き方を学ぶ。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

≪成績評価方法≫
 実習園の評価・日誌評価・勤務状況

≪テキスト≫
 ・「幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）」 チャイルド社
 ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院

≪実務経験 ☒ 有 ・ 無 ≫

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	実習
担当者名	真栄城 かの子	単位数	2
		時間数	10日間
《到達の目標》 「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を技術として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。			
《講義概要》 前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。			
《事前事後学習》 各自の実習のねらい、課題を明確にする。			
NO	実習目標		
1	子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。		
2	その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。		
3	問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。		
4	延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。		
5	保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。		
6	保育士としての自己の課題を明確化する。		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
《成績評価方法》 実習園の評価・日誌評価・勤務状況			
《テキスト》 ・「幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）」 チャイルド社 ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院			
《実務経験》 ☒ 有 ・ 無			

科目名	教育実習Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	実習
担当者名	佐藤 田鶴子	単位数	2
		時間数	10日間
≪到達の目標≫ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。			
≪講義概要≫ 専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。			
≪事前事後学習≫ 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること。			
NO	実習目標		
1	幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活。活動内容の概要		
2	遊び・生活場面での園児の行動。		
3	園児の行動に対する幼稚園教諭の対応。		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
≪成績評価方法≫ 実習園の評価・日誌評価・勤務状況			
≪テキスト≫ ・「幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）」 チャイルド社 ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院			
≪実務経験 ☒ 有 ・ 無 ≫			

科目名	教育実習Ⅰ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	実習
担当者名	佐藤 田鶴子	単位数	2
		時間数	10日間
≪到達の目標≫ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。			
≪講義概要≫ 専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。			
≪事前事後学習≫ 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること。			
NO	実習目標		
1	部分実習、全日実習の指導計画		
2	遊び・生活場面での園児の行動。		
3	園児の行動に対する幼稚園教諭の対応。		
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
≪成績評価方法≫ 実習園の評価・日誌評価・勤務状況			
≪テキスト≫ ・「幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）」 チャイルド社 ・「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」 同文書院			
≪実務経験 ☒ 有 ・ 無 ≫			

科目名	秘書学マナー	学科名	こども文化学科
		開講年次	1
		授業形態	実技
担当者名	小那覇 理菜	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

秘書検定3級合格を目指す。

《講義概要》

授業前後の予習・復習を行うこと。

《レポート作成》

時間	授業計画	時間	授業計画
1	必要とされる資質	16	
2	〃	17	
3	職務知識	18	
4	〃	19	
5	〃	20	
6	一般知識	21	
7	〃	22	
8	〃	23	
9	マナー・接遇	24	
10	〃	25	
11	〃	26	
12	技能	27	
13	〃	28	
14	〃	29	
15	まとめ	30	

《成績評価方法》

筆記試験・出席率

《テキスト》

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無 《

科目名	実習援助指導	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	3
		授業形態	講義
担当者名	仲村 義明	単位数	2
		時間数	30
《到達の目標》			
実習現場で実習生なりの責任を持った実習ができる様に自分自身の言葉で考え、判断する姿勢をきちんと身に付ける。			
《講義概要》			
教育課程総論、保育理論、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を事前に読んでおく。			
《レポート作成》			
保育実践については、幼稚園教育要領・保育所保育指針、保育や子ども家庭福祉のテキストや専門書から学生自身が答えをみつけるよう作成する。			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	幼稚園・保育所・児童福祉施設等	16	実習とは（形態と方法）
2	実習園を知る	17	実習生とは（心得とマナー）
3	幼稚園・保育所のデイリープログラム	18	幼稚園・保育所・施設の理解
4	実習課題（目標）の設定	19	保育者に望まれる資質
5	実習日誌の書き方	20	実習生と子どもとのかかわり
6	指導実習（部分実習・責任実習）の実際	21	保護者や子どもとのかかわり
7	特別な支援を必要とする子どもへの配慮	22	保護者や職員とのかかわり
8	幼保小連携および地域社会との連携	23	子どもの園生活（各施設の一日）
9	認定こども園での実習	24	保育実技（絵本・紙芝居・手遊びなど）
10	児童福祉施設等での実習	25	指導計画の立て方
11	対象となる子ども、利用者の実態	26	実習課題の立て方
12	実習課題（目標）の設定	27	実習直前準備
13	実習記録（実習日誌）の書き方	28	実習の事務手続き・オリエンテーション
14	〃	29	実習生として守ること
15	実習のしめくくり（まとめ・報告書）	30	実習後の振り返り
《成績評価方法》			
筆記試験・レポート・授業態度・出席率			
《テキスト》			
幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ワーク			
《実務経験（有）・ 無》			

科目名	沖縄の文化と歴史	学科名	こども文化学科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	新城 亘	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 沖縄の文化・歴史について興味を持つ。			
≪講義概要≫ 授業前後の予習・復習を行うこと。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	三線音楽。古典音楽・民謡。	16	
2	民謡の伝播。	17	
3	古典舞踊、雑踊り、組踊、民俗芸能	18	
4	正月、トシビー、シーミーなど	19	
5	沖縄の誕生から大交易時代。	20	
6	琉球王国。冊封使、冠船芸能	21	
7	薩摩置県。沖縄県。	22	
8	沖縄戦。戦後。	23	
9	京太郎について。	24	
10	人形劇団「かじまやあ」の実演と講座	25	
11	沖縄の文化（気候・風土・動植物など）	26	
12	沖縄の文化（文学・方言・民話など）	27	
13	〃	28	
14	まとめ	29	
15	筆記試験	30	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・出席率			
≪テキスト≫			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	レクリエーション指導法Ⅰ	学科名	こども文化学科
		開講年次	1
		授業形態	講義
担当者名	細田 奈々	単位数	2
		時間数	30
≪到達の目標≫ ①レクリエーション活動の楽しさを知りレク活動がもたらす良好な心の変化に気づく②良好な対人関係を構築するための心理的な仕組みを理解し、コミュニケーションを促進するための技術を高める③活動を効果的に展開するための基本的な考え方や基礎的な技術を習得する			
≪講義概要≫ クラス全体を通して、コミュニケーションを大事にする講義です。他者理解を深めながら支持的風土づくりに努め、多様化する人々に対応できるような学びを目指します。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	レクリエーション概論①	16	レクリエーション支援の理論
2	レクリエーション概論②	17	レク支援におけるコミュニケーション
3	レクインストラクター役割	18	対象者との信頼関係（心の仕組み）
4	楽しさと心の元気づくりについて	19	信頼関係づくりの方法
5	対象者の心の元気づくりの理解	20	良好な集団作りの理論
6	楽しさを感じる心の仕組み	21	集団づくりの理解
7	活動を心の元気づくりに活かす視点①	22	レクを通した良好な集団づくり
8	活動を心の元気づくりに活かす視点②	23	集団内のコミュニケーションの促進
9	ライフステージと心の元気づくり	24	自主的・主体的な力を育む理論
10	対象者の心の元気づくり課題①子ども	25	活動を楽しむ力
11	対象者の心の元気づくり課題②高齢者	26	やる気が生じる心の仕組み
12	対象者の心の元気づくり課題③障害者	27	自主的・主体的に活動を楽しむ力
13	きずなづくりとレクリエーション	28	成功体験を支える集団内の関係づくり
14	地域のきずなづくりの事例	29	ホスピタリティについて
15	心の元気と地域のきずなの理解	30	アイスブレーキングについて
≪成績評価方法≫ 筆記試験・レポート・出席率			
≪テキスト≫ ① 日本レクリエーション協会編『楽しさをとoshた心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法 - 』② その他、必要に応じて資料を配付する			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	レクリエーション指導法Ⅰ	学科名	こども文化学科
		開講年次	1
		授業形態	実技
担当者名	細田 奈々	単位数	2
		時間数	30
≪到達の目標≫ ①多彩なレクリエーション活動を体験し習得する②ホスピタリティを身に着ける③アイスブレイキングの技術を習得する④レクリエーション活動の展開方法を習得する			
≪講義概要≫ 体験活動をととして様々な技術の理解に努め、ロールプレイを重ねることでホスピタリティやアイスブレイキングの技術を身に着けていくことを目指します			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	アイスブレイキングプログラム体験①	16	活動を対象者に合わせる基本のアレンジ
2	アイスブレイキングプログラム体験②	17	基本のアレンジ演習
3	アイスブレイキング活動の習得	18	段階的なアレンジの応用
4	アイスブレイキング活動の演習	19	段階的なアレンジの演習
5	信頼関係づくりの方法（ホスピタリティ）	20	相互作用を促進するコミュニケーション技術
6	信頼関係づくりの方法（コミュニケーション技術）	21	相互作用を促進するコミュニケーション技術演習①
7	良好な集団作りの方法（プログラム）	22	相互作用を促進するコミュニケーション技術演習②
8	良好な集団作りの方法（支援技術）	23	レクリエーション活動の習得①体験
9	アイスブレイキング演習（ロールプレイ）	24	レクリエーション活動の習得①ロールプレイ
10	自主的主体的に楽しむ力を高める展開	25	レクリエーション活動の習得②体験
11	目標設定の方法 → 演習	26	レクリエーション活動の習得②ロールプレイ
12	目標設定の原則 → 演習	27	レクリエーション活動の習得③体験
13	効果を高める技術 → 演習	28	レクリエーション活動の習得③ロールプレイ
14	レクリエーション活動選択の考え方	29	レクリエーション活動の習得④体験
15	レクリエーション活動選択の演習	30	レクリエーション活動の習得④ロールプレイ
≪成績評価方法≫ 実技試験・出席率			
≪テキスト≫ ① 必要に応じて資料を配布する。② 参考分件等も必要に応じて提示する。			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	フレーベルの恩物遊び法	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2
		授業形態	実技
担当者名	入口 宏美	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ フレーベルの恩物について理解する。			
≪講義概要≫ 授業前後の予習・復習を行うこと。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	恩物について	16	第5恩物
2	フレーベルと球	17	第5恩物
3	第1恩物	18	第6恩物
4	第1恩物	19	第6恩物
5	第1恩物のまりの作り方	20	第6恩物
6	第2恩物	21	第7恩物
7	第2恩物	22	第7恩物
8	第2恩物	23	第7恩物
9	第3恩物	24	第8恩物
10	第3恩物	25	第8恩物
11	第3恩物	26	第8恩物
12	第4恩物	27	第9恩物
13	第4恩物	28	第9恩物
14	第4恩物	29	第10恩物
15	第5恩物	30	第10恩物
≪成績評価方法≫ 筆記試験・出席率			
≪テキスト≫			
≪実務経験 ☒ 有 ☐ 無≫			

科目名	レクリエーション指導法Ⅱ	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	講義
担当者名	細田 奈々	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

①スポーツレクリエーションを継続的に楽しめる場を創造するための基礎的な考え方を取得し、技術を高める

《講義概要》

クラス全体を通してディスカッションを大事にするクラスです。他者の見解を大事にしながら多様な角度から理解に努め、ロールプレイを重ねることでスポーツレクリエーションの楽しさを伝える技術を身に付けていくことを目指します

《レポート作成》

時間	授業計画	時間	授業計画
1	スポーツレクリエーション概論①	16	安全管理の基礎②
2	スポーツレクリエーション概論②	17	プログラムの組み立て基礎
3	スポーツ未実施者参加促進法①	18	対象者にあわせたスポレク支援①
4	スポーツ未実施者参加促進法②	19	①対象者（幼児）のアセスメント
5	スポーツ行政の仕組み	20	活動の選択・アレンジ・プログラミング
6	スポレク継続のための場づくり①	21	ロールプレイ演習 → 振り返り・評価・修正
7	スポレク継続のための場づくり②	22	②対象者（高齢者）のアセスメント
8	スポレク生理学①	23	活動の選択・アレンジ・プログラミング
9	スポレク生理学②	24	ロールプレイ演習 → 振り返り・評価・修正
10	スポレク心理学①	25	③対象者（障害者）のアセスメント
11	スポレク心理学②	26	活動の選択・アレンジ・プログラミング
12	動機付けの支援技術①	27	ロールプレイ演習 → 振り返り・評価・修正
13	動機付けの支援技術②	28	④対象者（学生設定）のアセスメント
14	動機付けの支援技術③	29	活動の選択・アレンジ・プログラミング
15	安全管理の基礎①	30	ロールプレイ演習 → 振り返り・評価・修正

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト - スポレク活動で健康寿命を延伸

《実務経験》 ☒ 有 ・ ☐ 無

科目名	レクリエーション指導法Ⅱ	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	実技
担当者名	細田 奈々	単位数	2
		時間数	30
≪到達の目標≫ ①モデルプログラム体験を通して理解を深める。②対象者を想定したレクリエーション支援を実施し、評価・改善のプロセスを定着に努める③郊外に赴き、多様な対象者と接する機会にする			
≪講義概要≫ 体験活動をととして様々な技術の理解に努め、多様な対象者を想定したロールプレイを重ねることで技術を定着させていくことを目指します			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	アイスブレイキング活動のふりかえり	16	ロールプレイ
2	アイスブレイキング活動の演習	17	モデルプログラムの体験③（屋外）
3	信頼関係づくりの方法（ホスピタリティ）	18	ロールプレイ
4	信頼関係づくりの方法（コミュニケーション技術）	19	レクリエーション支援の実施
5	良好な集団作りの方法のふりかえり	20	プログラムの立案①
6	良好な集団作りの方法ー支援技術演習	21	計画 → 実施
7	自主的主体的に楽しむ力のふりかえり	22	→ 評価 → 改善
8	自主的主体的に楽しむ力を高める演習	23	プログラムの立案②
9	レクリエーション活動選択の考え方のふりかえり	24	計画 → 実施
10	レクリエーション活動選択の演習	25	→ 評価 → 改善
11	モデルプログラムの体験①（幼児）	26	プログラム計画
12	ロールプレイ	27	i 対象者の選択及びアセスメント
13	モデルプログラムの体験②（高齢者）	28	ii プログラム計画・支援準備
14	ロールプレイ	29	iii 実施
15	モデルプログラムの体験③（地域）	30	IV支援の振り返りと評価及び改善
≪成績評価方法≫ 実技試験・出席率			
≪テキスト≫ ①楽しさをとおした心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法・②スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト③ その他、必要に応じて資料を配付する			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	煎茶道	学科名	子ども文化学科
		開講年次	3
		授業形態	実 技
担当者名	仲村久美子	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

日本の伝統文化である茶道に触れる機会を設け、茶道を通して作法を学び入門・初伝を身につけることで社会人（保育士）としてのスキルを磨くことを目指す。

《講義概要》

茶道具の名称を覚え、立ち居振る舞いや道具を使用し作法を何度も繰り返し経験を積む。

《レポート作成》

お茶の名称と産地の特徴をレポートする。

時間	授業計画	時間	授業計画
1	お茶の始まり（歴史）	16	実技試験
2	〃	17	
3	茶道具の名称と盆巾・茶巾の扱い方	18	
4	〃	19	
5	正座、畳の歩き方、道具の扱い方	20	
6	〃	21	
7	丸盆の割り稽古	22	
8	〃	23	
9	角盆の割り稽古	24	
10	〃	25	
11	茶具台の割り稽古	26	
12	〃	27	
13	〃	28	
14	丸盆・角盆・茶具台の稽古	29	
15	筆記試験	30	

《成績評価方法》

筆記試験・実技試験・レポート・出席率・割り稽古の評価

《テキスト》

講師作成資料

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無 《

科目名	わらべ歌指導法	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	演習
担当者名	宮城 葉子	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

「島くとうば」を使えるようになる。

《講義概要》

授業前後の予習・復習を行うこと。

《レポート作成》

時間	授業計画	時間	授業計画
1	「島くとうば」とは	16	お手玉づくり
2	「島くとうば」で自己紹介	17	〃
3	「島くとうば」であいさつ	18	教育実習に向けての「島くとうば」
4	「島くとうば」で会話	19	〃
5	保育園実習に向けての「島くとうば」	20	〃
6	〃	21	〃
7	〃	22	〃
8	〃	23	〃
9	〃	24	〃
10	〃	25	〃
11	〃	26	〃
12	〃	27	〃
13	〃	28	〃
14	〃	29	〃
15	〃	30	まとめ

《成績評価方法》

筆記試験・出席率

《テキスト》

「おきなわの行事うたあそび（ＣＤ付） 」 沖縄童唄普及研究会

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	琉球文化	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	実技
担当者名	仲程 愛子	単位数	2
		時間数	30
≪到達の目標≫ 琉球音楽のリズムになれ、踊れるようになる。			
≪講義概要≫ 郷土文化の歴史に関心を持つ。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	郷土の文化に触れる	16	舞台発表に向け取り組む
2	琉球音楽に合わせて、体を動かす。	17	〃
3	簡単な所作を覚える。	18	〃
4	所作を覚える（祝節）	19	〃
5	所作を覚える（祝節）	20	〃
6	琉球古典舞踊について	21	〃
7	琉球古典舞踊（四つ竹）	22	〃
8	琉球古典舞踊（四つ竹）	23	〃
9	琉球古典舞踊（二オゼイ）	24	〃
10	琉球古典舞踊（二オゼイ）	25	〃
11	創作舞踊（めでたい節）	26	〃
12	創作舞踊（めでたい節）	27	〃
13	舞台発表に向け取り組む	28	〃
14	〃	29	〃
15	〃	30	舞台発表
≪成績評価方法≫ 筆記試験・出席率			
≪テキスト≫			
≪実務経験 ☒ 有 ・ 無 ≫			

科目名	音楽リズム	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	実技
担当者名	宮良 和明	単位数	2
		時間数	30

《到達の目標》

楽器の取り扱い方や小道具の扱い方の基本を理解し、平易な曲目を演奏または演舞することができるようになる。

《講義概要》

授業前後の予習・復習を行うこと。

《レポート作成》

時間	授業計画	時間	授業計画
1	音楽リズムとは	16	舞台発表に向け取り組む
2	練習曲(担当教員の指示による。)	17	〃
3	〃	18	〃
4	〃	19	〃
5	〃	20	〃
6	〃	21	〃
7	〃	22	〃
8	〃	23	〃
9	〃	24	〃
10	〃	25	〃
11	〃	26	〃
12	〃	27	〃
13	〃	28	〃
14	〃	29	〃
15	〃	30	舞台発表

《成績評価方法》

筆記試験・レポート・出席率

《テキスト》

《実務経験 ☒ 有 ・ 無 》

科目名	レクリエーション指導法Ⅲ	学科名	こども文化学科
		開講年次	3
		授業形態	実技
担当者名	細田 奈々	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

①活動現場で対象者に対してレクリエーション支援を行うことで、これまでの学習成果を実践力として定着させる

《講義概要》

福祉施設へ出向き、PDCAプロセスを実際に行うことで感覚を磨くことを目指します

《レポート作成》

レクリエーション支援演習実施報告書

時間	授業計画	時間	授業計画
1	レクリエーションとスポレクの振り返り	16	
2	福祉施設についての情報整理	17	
3	対象者のアセスメント	18	
4	コンセプトメイキング	19	
5	プログラムの計画	20	
6	支援の準備①	21	
7	支援の準備②	22	
8	支援プログラムのプレ実施①	23	
9	プログラムの改善	24	
10	支援プログラムのプレ実施②	25	
11	プログラムの改善	26	
12	修正プログラムリハーサル	27	
13	レクリエーションプログラムの実施	28	
14	支援の振り返りと評価及び改善	29	
15	総まとめ	30	

《成績評価方法》

レポート・実技試験・出席率

《テキスト》

①楽しさをとoshした心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法・②スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト③その他、必要に応じて資料を配付する

《実務経験》 ☒ 有 ☐ 無

科目名	ピアノレッスンⅠ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	1
		授業形態	実技
担当者名	當眞 夏子	単位数	1
		時間数	20
≪到達の目標≫ ピアノ技術・弾き歌い技術を身につける。			
≪講義概要≫ 弾き歌いに積極的の取り組む。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	音価・5指の練習	16	ジングルベル・おかたづけ
2	ハ町長の音階・左手のコード奏	17	まつぼっくり・お正月
3	ちょうちょう・かえるの合唱	18	5指の練習（ニ長調）・ニ長調の音階
4	バイエル48番・66番	19	左手のコード奏（ニ長調）
5	むすんでひらいて・いとまき・うさぎとかめ	20	実技試験
6	虫の声・大きな栗の木の下で	21	
7	やきいもグーチーパー・はをみがきましょう	22	
8	手をたたきましょう	23	
9	5指の練習（ト長調）・ト長調の音階	24	
10	左手のコード奏（ト長調）	25	
11	ちょうちょう・ビーマーチ・きらきらぼし	26	
12	バイエル97番・73番・78番	27	
13	5指の練習（ヘ長調）・ヘ長調の音階	28	
14	左手のコード奏（ヘ長調）	29	
15	チューリップ・ぶんぶんぶん	30	
≪成績評価方法≫ 実技試験・出席率			
≪テキスト≫ ・「ピアノ教本」 近畿大学九州短期大学 副教材（自作）			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	ピアノレッスンⅡ	学科名	こども文化学科・こども幼児科
		開講年次	2・3
		授業形態	実技
担当者名	當眞 夏子	単位数	2
		時間数	30
≪到達の目標≫ スムーズに演奏できるスキルと表現法を習得する。			
≪講義概要≫ 保育現場で役立つ曲を見つける。			
≪レポート作成≫ 			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	とんとんとんひげじいさん・おてて洗いましょう	16	かわいいかくれんぼ・ぞうさん・森のくまさん
2	あくしゅでこんにちは・かたつむり・しゃぼん玉	17	やぎさんゆうびん・かもつ列車・バスごっこ
3	ミッキーマウスマーチ・メリーさんおひつじ	18	実技試験
4	バイエル96番・80番・100番	19	線路は続くよどこまでも・せっけんさん
5	おはながわらった・先生とおともだち	20	幸せなら手をたたこう・ふしぎなポケット
6	こどりのうた・こいのぼり・めだかの学校	21	おおちやのマーチ・おもちやのチャチャチャ
7	とけいのうた・あめふりくまのこ・たなばたさま	22	実習にむけて
8	うみ・おばけなんてないさ・つき	23	実習にむけて
9	とんぼのめがね・山の音楽家・どんぐりころころ	24	実技試験
10	たき火・あわてんぼうのサンタクロース・きよしこの夜	25	
11	豆まき・雪のペンキやさん・うれしいひなまつり	26	
12	思い出のアルバム・1年生になったら・おべんとう	27	
13	おはなし・おかえりのうた・ハッピーバースデー	28	
14	アイアイ・ありさんのおはなし・犬のおまわりさん	29	
15	おうま・おつかいありさん・おんまはみんな	30	
≪成績評価方法≫ 実技試験・出席率			
≪テキスト≫ ・「ピアノ教本」 近畿大学九州短期大学 副教材（自作）			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			

科目名	赤十字救護法Ⅰ	学科名	こども文化学科
		開講年次	1
		授業形態	実技
担当者名	日本赤十字社より講師派遣	単位数	1
		時間数	15

《到達の目標》

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を掲げて、講習を通して救急法などの普及に取り組む。

《講義概要》

ケガや病気に対する正しい手当の知識と技術を習得し、ケガや病気、災害から自分自身を守るという姿勢を身につける。

《レポート作成》

時間	授業計画	時間	授業計画
1	赤十字救急法とは	16	
2	観察の基本	17	
3	体位の基本	18	
4	傷病者への接し方	19	
5	現場での留意点	20	
6	一次救命処置の手順	21	
7	心肺蘇生（CPR）とは	22	
8	呼吸を見る	23	
9	胸骨圧迫	24	
10	気道確保	25	
11	人工呼吸	26	
12	胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ	27	
13	AEDを用いた除細動	28	
14	気道異物除去	29	
15	筆記・実技試験	30	

《成績評価方法》

筆記試験・実技試験・出席率

《テキスト》

・「救急法基礎講習」 日本赤十字社

《実務経験》 ☒ 有 ・ 無

科目名	赤十字救護法Ⅱ	学科名	こども文化学科
		開講年次	2
		授業形態	実技
担当者名	日本赤十字社より講師派遣	単位数	1
		時間数	15
≪到達の目標≫ 赤十字の使命を理解し、事故防止に努め「赤十字救急法救急員」の資格を取得する。			
≪講義概要≫ 地域や職場などにおいて、赤十字救急法の知識と技術を活かして、健康安全の普及に貢献することが望まれる。			
≪レポート作成≫			
時間	授業計画	時間	授業計画
1	赤十字救急法救急員とは	16	
2	救助について	17	
3	心臓発作・脳卒中・呼吸困難	18	
4	腹痛・痙攣・熱中症	19	
5	じんましん・たちくらみ・中毒	20	
6	ケガに対する応急手当の必要性	21	
7	きず・骨折・各部のけが・特殊のけが	22	
8	止血・包帯	23	
9	骨折・脱臼の手当て	24	
10	搬送方法	25	
11	災害時の心得	26	
12	大地震の際の心得	27	
13	水害の際の心得	28	
14	まとめ	29	
15	筆記・実技試験	30	
≪成績評価方法≫ 筆記試験・実技試験・出席率			
≪テキスト≫			
≪実務経験 (有) ・ 無 ≫			